



揚輝荘は、松坂屋の初代社長伊藤次郎左衛門祐民によって構築された別荘です。完成時（昭和十四年頃）には、約一万坪の敷地の中に三十数棟の各種建造物が建ち並び、池泉回遊式庭園とともに、覚王山の高台に威容を誇っていました。

かつては、各界の要人や文化人が往来する迎賓館、社交場として華やかなりし、アジアの留学生が寄宿して国際的なコミュニティを形成した場所でもありました。

その後、世の移ろいを経て残された歴史的建造物と庭園は今や市民共有の貴重な財産となり、今後本格公開に向けて修復・整備される予定です。

#### 揚輝荘小史

- |    |           |   |
|----|-----------|---|
| 大正 | 7年（1918）  | 「三賞亭」茶屋町本家から移築改修<br>「揚輝荘」と名づく                 |
|    | 8年（1919）  | 「揚輝荘座敷」矢張町五ノ切から移築改修<br>この頃から茶会、園遊会、運動会をたびたび開催 |
|    | 11年（1922） | 「有芳軒」徳川邸より移築改修                                |
|    | 12年（1923） | この頃より皇族、華族、文化人、軍人の来荘、宿泊頻繁                     |
| 昭和 | 4年（1929）  | 「伴華樓」徳川家より移築、洋室新築                             |
|    | 5年（1930）  | 「蒼雲庵」本家から移築                                   |
|    | 9年（1934）  | 祐民インドなど伝説逸話の旗                                 |
|    | 11年（1936） | 初の「外国人留学生」タイから迎え入れ                            |
|    | 12年（1937） | 「栗松園」移築「聴松閣」「サンタール」新築                         |
|    | 15年（1940） | （祐民茶屋町本邸で承継）「治助」追悼茶会                          |
|    | 20年（1945） | 空襲で建物の多くを滅失<br>「聴松閣」米軍司令官用宿舎として接收             |
|    | 27年（1952） | 米軍接收返還  |
|    | 36年（1961） | 松坂屋の社員寮（一部）（～54年）                             |
| 平成 | 19年（2007） | 名古屋市に寄贈、暫定公開開始                                |
|    | 20年（2008） | 「聴松閣」「揚輝荘座敷」「伴華樓」「三賞亭」<br>「白雲樓」名古屋市指定有形文化財に指定 |

# 揚輝荘

YOKISO



地下鉄東山線「覚王山」①番出口より 徒歩約10分

■公開時間 北園（南園は工事中、平成25年度公開予定）  
午前9時30分～午後4時30分

■休 園 日  
月 曜 日；祝祭日または振替休日の場合は閉園し、  
直後の平日を休園します。  
年末・年始：12月29日～1月3日  
そ の 他：イベント開催時休園日があります。

■お問合せ  
〒464-0057 名古屋市千種区法王町 2-5-21  
TEL 052-759-4450 ・ FAX 052-759-4451  
HP <http://www.city.nagoya.jp/>

（広告）

登録文化財

## 料亭 松橋閣

SHIBUKAWA  
電話：(052) 751-2526 FAX：(052) 762-7705  
住所：名古屋市千種区山門町2-3  
※ご利用の際は、お早めにお電話にてご予約ください。

中国料理

揚輝荘のお帰りには**浜木綿**末盛店で、  
ヘルシーな中国料理を。

電話：052(751)8810 定休日はいりません  
名古屋市千種区法王町二丁目5番地ルナプラザ2F  
営業時間：午前11時～午後10時30分（ラストオーダー午後10時）

浜木綿 はまわた  
コメビデし、みんなが  
Happy Party

このリーフレットは再生紙を使用しています。  
10.12.0000



# 揚輝荘



## 5 伴華楼

昭和四年、鈴木禎次の設計により尾張徳川家ゆかりの屋敷に洋室等を加えて建替しています。



## 1 白雲橋

修学院離宮の千歳橋を模したといわれる廊橋で北庭園のシンボルです。龍の天井絵、手彫りの白木擬宝珠などに趣向が凝らしてあります。



## 2 三賞亭

大正7年、茶屋町（現中区丸の内二丁目）の伊藤家本宅より移築した揚輝荘最初の建物です。煎茶の茶室で、竹のなげしなど東洋風のデザインが見られます。



## 6 北庭園

京都の修学院離宮を写したといわれる池泉回遊式庭園です。山桜、新緑、紅葉、落葉と四季折々の景色が楽しめます。

入り口の橋の欄干、白雲橋の階段、伴華楼の腰壁などには五色玉石貼りが見られます。



現状図

## 7 南庭園

回遊式の枯山水石庭です。茶庭の遺構を巡る散策路には名石、奇石に加え、五輪塔、四方佛手水鉢、大灯籠などの石造物が配置されています。南端には当初からの幕地塼が残されています。



赤字一環存 昭和14年頃の配置図

## 4 揚輝荘座敷

大正八年、大津通りの松坂屋本館の土地にあった屋敷を移築したもので、ペンガラ色の土壁と杉皮張りの腰壁には優雅な雰囲気を感じられます。



## 3 聴松閣

ハーフチンバーの外壁など山荘風の外観をした迎賓館で、昭和十二年に建替されました。地上三階の各室は各国様式がミックスされています。地階は全体がインド様式で、留学生が描いた壁画が残されています。

